



誓いの言葉

本日は私たち薬学部四年生のために、このような素晴らしい白衣式を開催していただき、誠にありがとうございます。本日この場に皆で集い、白衣に袖を通すことができることを、心より嬉しく思います。

ご来賓の先生方より温かい餞のお言葉を賜り、これから始まる実務実習に対する期待が一層高まりました。同時に、医療人の第一歩として実際の医療現場に立つことの責任の重さを自覚し、身の引き締まる思いを強く感じております。

私たちは慶應義塾に入学してからの四年間、先生方のご指導の下、同輩たちと支え合いながら学びを重ねて参りました。薬学の知識を身につけるだけでなく、薬剤師としてどのような姿勢で患者さんと向き合うべきか、日々考えながら学んできました。

これから臨む実務実習では、これまでに学んだ知識や技能を実際の医療現場で活かせるよう、一つひとつの経験を大切にしながら取り組んで参ります。医療に関わる一員としての自覚を持ち、受け身ではなく、自ら学ぼうとする姿勢を忘れずに実習に臨む所存です。

薬局実習では、患者さんの生活に最も近い場所で医療が行われていることを実感しながら、調剤や服薬指導といった基本業務の意味を一つひとつ理解して参ります。処方箋の背後にある患者さんの背景や思いに目を向け、継続的に関わる存在として信頼される薬剤師とは何かを考えながら、地域医療を支える役割を学んでいく所存です。

病院実習では、より専門性の高い医療が展開される現場に身を置き、薬物療法における薬剤師の判断と責任の重さを学びます。病棟業務や多職種との連携を通じて、限られた情報の中で最善を考え、チームの一員として医療に貢献する姿勢を身につけて参ります。

実際の医療現場では、戸惑い、思うようにいかない場面に直面することもあるかと思います。そのような時でも、患者さんにとって何が大切なを考え続け、誠実に学ぶ姿勢を大切にしていく所存です。

私たちは、家族をはじめとした多くの方々の支えによって、今日という日を迎えることができました。この感謝の気持ちを胸に、慶應義塾生の名に恥じぬよう、理想の薬剤師像を目指して邁進して参ります。

すべての実務実習を終えた日には、医療人として、そして一人の人間として成長した姿で戻り、将来薬剤師として社会に貢献するという自信と覚悟を持って歩み出すことを、ここに誓います。

2026年1月28日

慶應義塾大学薬学部 4年生一同